

10月の行事

文化講演会

「戦中、戦後の女学校時代

そして、書の道を歩みはじめて・・・」

村里 さち子（雅号 村里桃苑）さん（盛高1回生 書家）



にこやかに挨拶



万葉仮名・変体仮名についての解説



華道部の花でお出迎え



村里さんの想いが伝わる講演



演題



村里さんの文字による解説



代表生徒より花束贈呈



手を振って挨拶

生徒達の感想

- 体育の時間に手榴弾を投げる練習をしていた、という戦時中の話が印象的でした。
- 今の学校生活が幸せであると改めて感じました。
- 字は「上手に」ではなく「ゆっくり丁寧に」書くものだ、というのが心に残りました。
- 「字は読むためにある」という言葉が印象的でした。
- 村里さんの講演を聴き、書道に挑戦してみたいと思いました。
- 気持ちを込めた手書きの手紙を送ってみようと思いました。
- 書道を辞めたいと思ったことがないというのに共感しました。私も好きなことへの情熱を持ち続け、村里さんのように輝いていきたいです。
- 村里さんが二高の先輩であることを誇りに思います。



生徒はもちろん、同窓生・保護者の方々も熱心に拝聴



講演を終えて

生徒さん達が真剣なまなざしで聞いて下さった事、終って会場を後にする時にいただいた皆さんの笑顔が心に焼きつき、うれしく感謝でした。

村里 さち子